

<p>現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)</p>	<p>新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)</p>	<p>現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)</p>	<p>備 考</p>
<p style="text-align: center;">第2款 各 科 目</p> <p>【社会と情報】</p> <p>1 目 標</p> <p>情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。</p>	<p style="text-align: center;">第10節 情 報</p> <p style="text-align: center;">第1款 目 標 (「情報Ⅰ」と同様：省略)</p> <p style="text-align: center;">第2款 各 科 目</p> <p>第2 情報Ⅱ</p> <p>1 目 標</p> <p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、<u>創造的に活用</u>し、情報社会に主体的に参画し、<u>その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</u></p> <p>(1) <u>多様なコミュニケーションの実現</u>、<u>情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに</u>、<u>情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。</u></p>	<p>【情報の科学】</p> <p>1 目 標</p> <p>情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。</p>	<p>「情報Ⅱ」の内容は、「情報Ⅰ」の(1)～(4)を発展させた内容。そこに「(5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究」が加わる。</p> <p>「目標」を情報Ⅰと比較すると下線部の文言が加わったり、表現が変わったりしている。「創造的に」「情報社会の発展に寄与」「多様な」「価値の創造」などの文言からも、その目標が高レベルであることが想定される。</p>

現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)	新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)	現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)	備 考
<p>2 内 容</p> <p>(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション</p> <p>ア コミュニケーション手段の発達 <u>コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けて理解させるとともに、通信サービスの特徴をコミュニケーションの形態とのかかわりで理解させる。</u></p>	<p>2 内 容</p> <p>(1) 情報社会の進展と情報技術</p> <p>情報技術の発展による人や社会への影響に着目し、<u>情報社会の進展と情報技術との関係を歴史的に捉え、将来の情報技術を展望する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 情報技術の発展の歴史を踏まえ、<u>情報社会の進展について理解</u>すること。</p> <p>(イ) 情報技術の発展による<u>コミュニケーションの多様化について理解</u>すること。</p>	<p>2 内 容</p>	<p>※本表では、現行学習指導要領の「社会と情報」「情報の科学」との対照を示しているが、「情報Ⅰ」との比較も必要に応じてこの「備考」欄に示したい。</p> <p>「情報Ⅰ」(1)情報社会の問題解決を進展させた内容。情報社会と情報技術について、「歴史的に捉え」「将来を展望」する。</p> <p>「情報Ⅰ」で現在の情報やメディア、法や制度などについて基本的な特性を踏まえ、「情報Ⅱ」では未来にも目を向けさせようとする表現。</p>

現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)	新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)	現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)	備 考
<p>(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション</p> <p>ア コミュニケーション手段の発達 コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けて理解させるとともに、通信サービスの特徴をコミュニケーションの形態とのかかわりで理解させる。(再掲)</p> <p>(3) 情報社会の課題と情報モラル</p> <p>ウ 情報社会における法と個人の責任 多くの情報が公開され流通している現状を認識させるとともに、情報を保護することの必要性とそのため の法規及び個人の責任を理解させる。</p>	<p>(ウ) 情報技術の発展による人の<u>知的活動への影響</u>について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について<u>考察</u>すること。</p> <p>(イ) コミュニケーションが多様化する社会における<u>コンテンツの創造と活用の意義</u>について考察すること。</p> <p>(ウ) 人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察すること。</p>	<p>(4) 情報技術の進展と情報モラル</p> <p>ア 社会の情報化と人間 <u>社会の情報化が人間に果たす役割と及ぼす影響</u>について理解させ、情報社会を構築する上での人間の役割を考えさせる。</p> <p>(4) 情報技術の進展と情報モラル</p> <p>ウ 情報社会の発展と情報技術 情報技術の進展が社会に果たす役割と及ぼす影響を理解させ、情報技術を社会の発展に役立てようとする態度を育成する。</p> <p>(4) 情報技術の進展と情報モラル</p> <p>ア 社会の情報化と人間 社会の情報化が人間に果たす役割と及ぼす影響について理解させ、情報社会を構築する上での人間の役割を考えさせる。(再掲)</p>	<p>備考</p> <p>「考察する」は「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」とともに「イ」項目で多用されている。</p> <p>「コンテンツ」という用語は次の(2)につながるもの。「情報Ⅰ」の(1)との比較では「問題解決」に関連する事項が見当たらないが、これは(2)～(4)でも同様に、問題解決を意識した活動は(5)に集約されている。</p>

現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)	新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)	現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)	備 考
<p>(1) 情報の活用と表現</p> <p>ア 情報とメディアの特徴 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用するために、情報の特徴とメディアの意味を理解させる。</p> <p>ウ 情報の表現と伝達 情報を分かりやすく表現し効率的に伝達するために、情報機器や素材を適切に選択し利用する方法を習得させる。</p>	<p>(2) コミュニケーションとコンテンツ 多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性に着目し、目的や状況に応じて情報デザインに配慮し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを協働して制作し、<u>様々な手段で発信する活動</u>を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性との関係について理解すること。</p> <p>(イ) 文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作する技能を身に付けること。</p> <p>(ウ) コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に<u>社会に発信する方法</u>を理解すること。</p>		<p>コンテンツの協働制作が想定される内容。発信の方法も含めた活動計画が必要になる。</p> <p>「情報Ⅰ」(2)では、比較的小規模なコミュニケーションの中での「情報デザイン」に留まる。「情報Ⅱ」では「情報Ⅰ」での学習を踏まえ、社会に向けて発信することも視野に入れる必要がある。</p>

<p>現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)</p>	<p>新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)</p>	<p>現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)</p>	<p>備 考</p>
<p>(1) 情報の活用と表現 ウ 情報の表現と伝達 情報を分かりやすく表現し効率的に伝達するために、情報機器や素材を適切に選択し利用する方法を習得させる。(再掲)</p>	<p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 目的や状況に応じて、コミュニケーションの形態を考え、文字、音声、静止画、動画などを選択し、組合せを考慮すること。 (イ) 情報デザインに配慮してコンテンツを制作し、評価し改善すること。 (ウ) <u>コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し改善すること。</u></p> <p>(3) 情報とデータサイエンス 多様かつ大量のデータを活用することの有用性に着目し、<u>データサイエンスの手法によりデータを分析し、その結果を読み取り解釈する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) <u>多様かつ大量のデータの存在やデータ活用の有用性、データサイエンスが社会に果たす役割について理解し、目</u></p>	<p>(3) 情報の管理と問題解決 イ 情報の蓄積・管理とデータベース 情報を蓄積し管理・検索するため</p>	<p>コンテンツを発信したときの効果や影響という意味では、「メディア・リテラシー」的な視点が必要になる。</p> <p>用語として「データサイエンス」が学習指導要領に記述されたことは大きなポイント。アの(ア)でデータ活用の有用性を学び、そこで十分な動機づけを行う必要がある。その上で、統計学とデータベースの視点を合わせた実習展開が望まれる。</p>

現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)	新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)	現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)	備 考
	<p>的に応じた適切なデータの収集や整理，整形について理解し技能を身に付けること。</p> <p>(イ) <u>データに基づく現象のモデル化</u>やデータの処理を行い解釈・表現する方法について理解し技能を身に付けること。</p> <p>(ウ) <u>データ処理の結果を基にモデルを評価することの意義とその方法</u>について理解し技能を身に付けること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) <u>目的に応じて，適切なデータを収集し，整理し，整形すること。</u></p>	<p>のデータベースの概念を理解させ，問題解決にデータベースを活用できるようにする。</p> <p>(2) 問題解決とコンピュータの活用 ウ モデル化とシミュレーション モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させ，実際の問題解決に活用できるようにする。</p> <p>(3) 情報の管理と問題解決 ウ 問題解決の評価と改善 問題解決の過程と結果について評価し，改善することの意義や重要性を理解させる。</p> <p>(3) 情報の管理と問題解決 イ 情報の蓄積・管理とデータベース 情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解させ，問題解決にデータベースを活用できるようにする。</p>	<p>備考</p> <p>現行学習指導要領の「情報の科学」では，モデル化とシミュレーションの単元と，データベースの単元の間の関連付けはあまり意識されてこなかった。</p> <p>「情報Ⅰ」(4)では，情報システムとデータとの関係に焦点があたっている。「情報Ⅱ」(3)は，純粋な「データ活用」のノウハウを扱うイメージか。</p>

<p>現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)</p>	<p>新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)</p>	<p>現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)</p>	<p>備 考</p>
<p>(4) 望ましい情報社会の構築</p> <p>ア 社会における情報システム 情報システムの種類や特徴を理解させると ともに、それらが社会生活に果たす役割と</p>	<p>(イ) <u>将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために、適切なモデル化や処理、解釈・表現を行うこと。</u></p> <p>(ウ) <u>モデルやデータ処理の結果を評価し、モデル化や処理、解釈・表現の方法を改善すること。</u></p> <p>(4) 情報システムとプログラミング</p> <p>情報システムの在り方や社会生活に及ぼす影響、情報の流れや処理の仕組みに着目し、<u>情報システムを協働して開発する活動</u>を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 情報システムにおける、情報の流れや処理の仕組み、<u>情報セキュリティを確保する方法や技術</u>について理解すること。</p>	<p>(2) <u>問題解決とコンピュータの活用</u></p> <p>ウ モデル化とシミュレーション モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させ、実際の問題解決に活用できるようにする。</p> <p>(3) 情報の管理と問題解決</p> <p>ウ 問題解決の評価と改善 問題解決の過程と結果について評価し、改善することの意義や重要性を理解させる。</p> <p>(1) コンピュータと情報通信ネットワーク</p> <p>ウ 情報システムの働きと提供するサービス 情報システムとサービスについて</p>	<p>現行「情報の科学」の「モデル化とシミュレーション」からの発展。「問題解決」という用語はない。</p> <p>「情報システム」を開発する活動。どの程度の情報システムを想定しているのかは、解説の公開が待たれる。</p> <p>「情報セキュリティ」も踏まえた情報システムの開発ということになる。</p>

<p>現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)</p>	<p>新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)</p>	<p>現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)</p>	<p>備 考</p>
<p>及ぼす影響を理解させる。</p> <p>(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション</p> <p>イ 情報通信ネットワークの仕組み 情報通信ネットワークの仕組みと情報セキュリティを確保するための方法を理解させる。</p> <p>(3) 情報社会の課題と情報モラル</p> <p>イ 情報セキュリティの確保 個人認証と暗号化などの技術的対策や情報セキュリティポリシーの策定など、情報セキュリティを高めるための様々な方法を理解させる。</p>	<p>(イ) <u>情報システムの設計を表記する方法、設計、実装、テスト、運用等のソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解すること。</u></p> <p>(ウ) 情報システムを構成するプログラムを制作する方法について理解し技能を身に付けること。</p>	<p>て、情報の流れや処理の仕組みと関連付けながら理解させ、それらの利用の在り方や社会生活に果たす役割と及ぼす影響を考えさせる。</p> <p>(4) 情報技術の進展と情報モラル</p> <p>イ 情報社会の安全と情報技術 情報社会の安全とそれを支える情報技術の活用を理解させ、情報社会の安全性を高めるために個人が果たす役割と責任を考えさせる。</p> <p>(3) 情報の管理と問題解決</p> <p>ウ 問題解決の評価と改善 問題解決の過程と結果について評価し、改善することの意義や重要性を理解させる。(再掲)</p> <p>(2) 問題解決とコンピュータの活用</p> <p>イ 問題の解決と処理手順の自動化 問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を習得させ、コンピュータによる処理手順の自動実行の有用性を理解させる。</p>	<p>普通教科、共通教科としては扱われてこなかった内容。専門教科の一部科目で扱われてきた内容。「ネットワークシステム」「情報システム実習」などが参考になる。</p>

<p>現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)</p>	<p>新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)</p>	<p>現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)</p>	<p>備 考</p>
<p>(3) 情報社会の課題と情報モラル ア 情報化が社会に及ぼす影響と課題 情報化が社会に及ぼす影響を理解させるとともに、望ましい情報社会の在り方と情報技術を適切に活用することの必要性を理解させる。</p> <p>(4) 望ましい情報社会の構築 ア 社会における情報システム 情報システムの種類や特徴を理解させるとともに、それらが社会生活に果たす役割と及ぼす影響を理解させる。(再掲)</p> <p>(4) 望ましい情報社会の構築 イ 情報システムと人間 人間にとって利用しやすい情報システムの在り方、情報通信ネットワークを活用して様々な意見を提案し集約するための方法について考えさせる。</p>	<p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察すること。</p>		

<p>現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)</p>	<p>新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)</p>	<p>現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)</p>	<p>備 考</p>
<p>(4) 望ましい情報社会の構築 ウ 情報社会における問題の解決 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して問題を解決する方法を習得させる。</p>	<p>(イ) <u>情報システムをいくつかの機能単位に分割して制作し統合するなど、開発の効率や運用の利便性などに配慮して設計すること。</u></p> <p>(ウ) 情報システムを構成するプログラムを制作し、その過程を評価し改善すること。</p> <p>(5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究 「<u>情報Ⅰ</u>」及び「<u>情報Ⅱ</u>」で身に付けた資質・能力を総合的に活用し、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する活動を通して、新たな価値の創造を目指し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する資質・能力を高めることができるよう指導する。</p>	<p>(3) 情報の管理と問題解決 ア 情報通信ネットワークと問題解決 問題解決における情報通信ネットワークの活用方法を習得させ、情報を共有することの有用性を理解させる。</p> <p>(2) 問題解決とコンピュータの活用 イ 問題の解決と処理手順の自動化 問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を習得させ、コンピュータによる処理手順の自動実行の有用性を理解させる。(再掲)</p> <p>(2) 問題解決とコンピュータの活用 ア 問題解決の基本的な考え方 問題の発見、明確化、分析及び解決の方法を習得させ、問題解決の目的や状況に応じてこれらの方法を適切に選択することの重要性を考えさせる。</p> <p>(4) 情報技術の進展と情報モラル ウ 情報社会の発展と情報技術</p>	<p>同じく専門教科で一部扱われたきた内容。</p> <p>「情報Ⅱ」での問題解決はここに集約される。(1)～(4)の内容も当然のことながら問題解決活動の中で生きてくる技能であり、「情報Ⅰ」の内容も含めて、ここで統合的に扱われる。</p>

<p>現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)</p>	<p>新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)</p>	<p>現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)</p>	<p>備 考</p>
<p><u>(対応無し)</u></p> <p>(1) 情報の活用と表現</p> <p>イ 情報のデジタル化</p> <p>情報のデジタル化の基礎的な知識と技術及び情報機器の特徴と役割を理解させるとともに、デジタル化された情報が統合的に扱えることを理解させる。</p> <p>(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション</p> <p>ウ 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション</p> <p>情報通信ネットワークの特性を踏まえ、効果的なコミュニケーションの方法を習得させるとともに、情報の受信及び発信時に配慮すべき事項を理解させる。</p>		<p>情報技術の進展が社会に果たす役割と及ぼす影響を理解させ、情報技術を社会の発展に役立てようとする態度を育成する。</p> <p><u>(対応無し)</u></p> <p>(1) コンピュータと情報通信ネットワーク</p> <p>ア コンピュータと情報の処理</p> <p>コンピュータにおいて、情報が処理される仕組みや表現される方法を理解させる。</p> <p>イ 情報通信ネットワークの仕組み</p> <p>情報通信ネットワークの構成要素、プロトコルの役割、情報通信の仕組み及び情報セキュリティを確保するための方法を理解させる。</p>	<p>※対応無し</p> <p>いずれも、(5)と関連付くと考えることもできるが、取り扱う内容のレベルに大きな隔りがある。</p>

現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)	新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)	現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)	備 考
<p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の(1)については、情報の信頼性、信憑性及び著作権などに配慮したコンテンツの作成を通して扱うこと。イについては、標準化や量子化を取り上げ、コンピュータの内部では情報がデジタル化されていることについて扱うこと。ウについては、実習を中心に扱い、生徒同士で相互評価させる活動を取り入れること。</p> <p>(2) 内容の(2)のイについては、電子メールやウェブサイトなどを取り上げ、これらの信頼性、利便性についても扱うこと。ウについては、実習を中心に扱い、情報の信憑性や著作権などへの配慮について自己評価させる活動を取り入れること。</p> <p>(3) 内容の(3)のアについては、望ましい情報社会の在り方と情報技術の適切な活用について生徒が主体的に考え、討議し、発表し合うなどの活動を取り入れること。イについては、情報セキュリティを確保するためには技術的対策と組織的対応とを適切に組み合わせることの重要性についても扱うこと。ウについては、</p>	<p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の(1)については、この科目の導入として位置付けるものとする。アの(ア)については、情報セキュリティ及び情報に関する法規や制度についても触れるものとする。また、将来の情報技術と情報社会の在り方等について討議し発表し合うなどの活動を取り入れるものとする。</p> <p>(2) 内容の(2)のアの(ア)及びイの(イ)では、<u>コンテンツに対する要求を整理する活動</u>も取り入れるものとする。アの(ウ)及びイの(ウ)では、発信者、受信者双方の視点からコンテンツを評価する活動を取り入れるものとする。</p> <p>(3) 内容の(3)のアの(ア)については、データサイエンスによる人の生活の変化についても扱うものとする。イの(イ)については現実のデータの活用に配慮するものとする。アの(ウ)及びイの(ウ)については、アの(イ)及びイの(イ)で行ったモデル化や処理、解釈・表現の結果を受けて行うようにするものとする。</p> <p>(4) 内容の(4)のアの(ア)及びイの(イ)については、社会の中で実際に稼働している</p>	<p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の(1)のアについては、標準化や量子化などについて扱うこと。イについては、情報のやり取りを図を用いて説明するなどして、情報通信ネットワークやプロトコルの仕組みを理解させることを重視すること。ウについては、情報システムが提供するサービスが生活に与えている変化について扱うこと。</p> <p>(2) 内容の(2)のアについては、生徒に複数の解決策を考えさせ、目的と状況に応じて解決策を選択させる活動を取り入れること。イ及びウについては、学校や生徒の実態に応じて、適切なアプリケーションソフトウェアやプログラム言語を選択すること。</p> <p>(3) 内容の(3)については、実際に処理又は創出した情報について生徒に評価させる活動を取り入れること。アについては、学校や生徒の実態に応じて、適切なアプリケーションソフトウェアや情報通信ネットワークを選択すること。イについては、簡単なデータベースを作成する活動を取り入れ、情報が喪失した際のリスクについて扱うこと。</p>	<p>誰に対してのコンテンツなのかというターゲット分析的な視点。</p>

<p>現行学習指導要領【社会と情報】 (平成21年告示)</p>	<p>新学習指導要領【情報Ⅱ】 (平成30年告示)</p>	<p>現行学習指導要領【情報の科学】 (平成21年告示)</p>	<p>備 考</p>
<p>知的財産や個人情報の保護などについて扱い、情報の収集や発信などの取扱いに当たっては個人の適切な判断が重要であることについても扱うこと。</p> <p>(4) 内容の(4)については、望ましい情報社会を構築する上での人間の役割について生徒が主体的に考え、討議し、発表し合うなどの活動を取り入れること。イについては、生徒に情報システムの改善策などを提案させるなど、様々な意見を提案し集約する活動を取り入れること。</p>	<p>情報システムを取り上げ、それらの仕組みと関連させながら扱うものとする。</p> <p>(5) 内容の(5)については、この科目のまとめとして位置付け、生徒の興味・関心や学校の実態に応じて、コンピュータや情報システムの基本的な仕組みと活用、コミュニケーションのための情報技術の活用、データを活用するための情報技術の活用、情報社会と情報技術の中から一つ又は複数の項目に関わる課題を設定して問題の発見・解決に取り組ませるものとする。<u>なお、学習上の必要があり、かつ効果的と認められる場合は、指導の時期を分割することもできるものとする。</u></p> <p>第3款各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い (「情報Ⅰ」と同様：省略)</p>	<p>(4) 内容の(4)については、生徒が主体的に考え、討議し、発表し合うなどの活動を取り入れること。アについては、情報機器や情報通信ネットワークの様々な機能を簡単に操作できるようにする工夫及び高齢者や障害者による利用を容易にする工夫などについても扱うこと。イについては、情報通信ネットワークなどを使用した犯罪などについて取り上げ、情報セキュリティなどに関する情報技術の適切な活用方法についても扱うこと。ウについては、情報技術を適切に活用するための個人の責任や態度について取り上げ、情報技術を社会の発展に役立てようとする心構えを身に付けさせること。</p>	<p>詳細未確認。</p>